

町政を問う!!

9 議員が質問・提案を

支所機能

佐賀支所の移転 見解は

今後の課題だ



やまもと ひさお 議員
山本 久夫 議員

先や利便性等を考慮する
と候補地の選定も困難な
状況と考える。

そうした状況下、大震
災からある程度の時間が
経過した現在、佐賀支所
の役割や機能維持につい
て移転も含め対応拠点の
再検討も必要だと考える。

問 東日本大震災から10
年が過ぎ、黒潮町におい
てはハード・ソフト事業
が進められ、一定の対応
と対策が完了した状況で
はないかと考える。

現在、発災後は、佐賀
支所の支所機能を拳ノ川
総合保健センターに移転
して、復旧・復興の対応
拠点とすることになって
いる。

本来なら、佐賀支所は
安全な高台に移転し、周
辺に一定の宅地を造成す
ることが理想だが、移転

役場機能の維持は、発
災後の復旧・復興に重要
なのは、町も承知と思っ
が、現在の対応拠点と
なっている拳ノ川総合保
健センターの面積や参集
できる職員数、被災者の
利便性、その他対応に必
要な設備等を考えると、
現状の計画が最善かどう
か、佐賀支所の移転を含
め、対応拠点の見直し
が必要と考えるが見解を
聞

答 松本町長

佐賀支所の移転につい
ては、施設の移転と災害
時の機能移転の両面から
の質問と思うが、佐賀支
所の施設移転については、
財政的な総合判断が必要
で、現在、耐震工事も完
了し、当面は近隣の避難
場所の整備を講ずること
で対応している。

町の公共施設は、公共
施設等総合管理計画によ
り管理しており、佐賀支
所の今後の在り方として
は、施設の長寿命化を図
るため、令和3年度に、
大規模な外壁工事及びト
イレの改修等を行う予定
となっている。

基本的な方針の中では
施設の建替え、複合化
集約化、長寿命化等の検
討を行うとしているが、
現段階では、建替えや移
転の具体的な計画はない。
今後、公共施設等整備
計画と財政シミュレー
ション等を検討する中で、
考えていかなければなら
ない課題だと考える。
災害時の機能移転につ

いては、地域防災計画に
定めている。

風水害等の一般的な災
害時は、佐賀支所が災害
対策佐賀支部となり、南
海トラフ地震が発生し、
被災した場合は、津波浸
水想定区域外の拳ノ川総
合保健センターが災害対
策佐賀支部になり公共機
能が移転される。

町の業務継続計画では
発災後、想定される参集
可能な職員は約60%の34
人が6時間以内に参集可
能と計画している。

この計画は1カ月の計
画であり、その後は徐々
に通常の業務に移行する
ものとなっている。

長期間にわたり、拳ノ
川総合保健センターが佐
賀支所の役割を果たすと
いうのは少し無理がある
と考えている。

当然、今の計画がベス
トとは思っていない。

被災を想定した事前復
興も検討しながら計画の
内容を高めていく必要が
あり、引き続き検討する。



上は支所被災時に対応拠
点となる拳ノ川総合保健
センター。右は佐賀支所。